

インドネシア 「グリーン・ウォール」の普及と拡大

現地からのお便り

2015 年 1 月
コンサベーション・インターナショナル

モニタリングと森林再生の経過報告

300 ヘクタールの森に植えられた 120,000 本の木のうち、20,000 本が枯れてしまいましたが、2014 年 12 月に雨季に入ったので、すでに植え替えが終了しています。地元コミュニティや公園レンジャーのみなさんと植えたのは、在来種である、マグノリア科のマンガリッド、フトモモ科のキシレウム、キョウチクトウ科のラメです。植林前には 50 人ほどが集まって、どのように植え替えていくかを話し合いました。



地元コミュニティとの会合



地元コミュニティと植林

組織力の強化

組合をさらに機能させていくために、トレーニングを行いました。地元政府の人が、製品と販売について教えてくれる一日トレーニングには、35 人が参加しました。



組合のためのトレーニング

森林再生プログラムへのサポート強化

ダイキンプロジェクトはすでにコミュニティに役立つ保全活動になっています。私たちはこのプロジェクトの取り組みとその結果が広く知られ、国際的な企業が国立公園の別のエリアでプロジェクトに参加してくれることを期待しています。その他にも、私たちは「森の里親プログラム」を実施しています。インドネシア国内の企業や個人にそれぞれ 1~5 ヘクタールの植林をしてもらう取り組みです。

「必要を見つけよう」プログラムを通して、10 月にはシンガポールに本社を持つ Jebsen & Jessen から 17 名のボランティアが来てくれました。ダイキンプロジェクトの経験を生かして、6 日間でパシール・ブントウ村 にきれいな水を届けるパイプシステムを作りました。また、2 ヘクタールの土地に 2,000 本の植林をしたり、学校で環境保全について教えたりもしました。



村に水が！



スタッフによる植林



学校で環境教育

大漁！

2013 年 11 月に、ダイキンの方々がプロジェクトサイトを訪れ、稚魚を地元の養殖池に放流しました。そして 12 月、稚魚は立派に育って捕獲され、地元コミュニティのために役立っています。



看板

3箇所に設置された看板は、大切に手入れされています。



2014年10月



2014年11月
看板一号



2014年12月



2014年10月



2014年11月
看板二号



2014年12月



2014年10月



2014年11月
看板三号



2014年12月

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。